

医師が記入した「意見書」が必要な感染症一覧

(「保育園における感染症対策ガイドライン」「厚生労働省感染症・予防接種情報」より引用)

R6、4

病名	主な症状	潜伏期間	重症化・合併症等	予防接種	登園のめやす
麻疹(はしか)	高熱と同時に発疹後、ほほの内側に白い斑点(コプリック斑)	8~12日	中耳炎、肺炎、熱性けいれん、脳炎	有	解熱した後3日を経過するまで
インフルエンザ	突然の発熱・だるさ・関節痛・頭痛・のどの痛み・鼻水・咳	1~4日	肺炎、中耳炎、熱性けいれん・脳症	有	発症後最低5日間且つ解熱した後、幼児は3日を経過するまで
風疹(三日はしか)	淡紅色の発疹リンパ節の腫れ	16~18日	関節炎、血小板減少性紫斑病、肺炎、妊婦前中期の感染で子どもに先天異常の可能性あり	有	発疹が消失するまで
水痘(みずぼうそう)	発疹は紅斑から丘疹、水泡、痂皮の順に変化する	14~16日	皮膚の細菌感染症、肺炎、妊婦の感染で子どもの先天異常の可能性あり、重症水痘で死亡することあり	有	すべての発疹が痂皮化するまで
流行性耳下腺炎(ムンプス・おたふくかぜ)	発熱、耳の下の腫れと痛み	16~18日	無菌性髄膜炎、難聴、急性脳炎	有	腫れが発現した後5日間を経過し、かつ全身状態が良好となるまで
結核	発熱・咳・呼吸困難チアノーゼ	2年以内特に6ヶ月以内	結核性髄膜炎(高熱、頭痛、嘔吐、意識障害、けいれん、後遺症・死亡例あり)	有	医師により感染の恐れがなくなったと認められるまで
咽頭結膜熱(プール熱・アデノウイルス感染症)	39℃前後の発熱のどの痛み・目の充血	2~14日	熱性けいれん、肺炎	無	主な症状が消失し、2日を経過するまで
流行性角結膜炎(はやり目)	流涙・白目の充血・目やにまぶたの腫れ	2~14日	視力障害の可能性あり	無	医師が感染の恐れがないと認めるまで(症状が消失してから)
百日咳	のどの痛み・鼻水・咳から次第に咳が強くなり1~2週間で特異な咳	7~10日	肺炎、脳症生後6か月以内、早産児とワクチン未接種者は合併症や発現や致死率が高い	有	特異な咳が消失するまで5日間の適正な抗菌剤による治療が終了するまで
腸管出血性大腸菌感染症(O-157、O-26、O-111)	激しい腹痛・頻回の水様便・血便、発熱は軽度	3~4日	溶血性尿毒症候群、脳症(3歳以下の発症多い)	無	症状が治まり、かつ、抗菌薬による治療が終了し、48時間をあけて連続2回の検便で、いずれも菌の陰性が確認できること
急性出血性結膜炎	急性結膜炎で、目の充血・目の痛み・目やに・結膜出血	1~3日	り患後6~12ヶ月後に手足の運動麻痺をおこすことがある	無	医師が感染の恐れがないと認めるまで
髄膜炎(細菌性髄膜炎(侵襲性髄膜炎菌感染症))	頭痛・発熱・けいれん意識障害・点状出血・関節炎		敗血症、紫斑、ショック状態	有	医師が感染の恐れがないと認めるまで
細菌性胃腸炎	下痢や悪心・嘔吐時には腹痛・発熱	数時間~5日	脱水・電解質異常二次的に急性腎不全・ショック・重症不整脈	無	下痢・嘔吐などの症状治まり、普段通りの食事がとれる

*上記以外の疾病においても、集団感染等の恐れがある時には意見書を要することがあります。

意見書	
和ほいくえん 園長殿	クラス _____ 園児氏名 _____
____ 月 ____ 日 病名 _____	に罹患しましたが症状も回復し、
集団生活に支障がない状態になったので ____ 月 ____ 日 から登園可能と判断します。	
____ 年 ____ 月 ____ 日	
医療機関名 _____	
医師名 _____	Ⓜ 又はサイン _____